



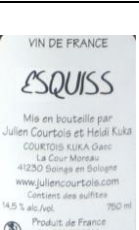



Le Clos de la Bruyere (Julien Courtois)

ル・クロ・ド・ラ・ブリュイエール (ジュリアン・クルトワ)

ジュリアン・クルトワが1998年、20歳の時に立ち上げたワイナリー。幼少時から父、クロード・クルトワと共に生活に必要な野菜の栽培や、動物の世話をしながら、ブドウの栽培、ワイン造りを醸造を学び続けた。所有する畑は、ソーローニユ村でシレックスに富む粘土と、珪土土壌の5ha。ガメ、ムニュー・ピノなどは1968年植樹の古木で、収量を抑え、一部のキュヴェでは4年以上熟成後にリリースするという頑固なまでの職人気質は、しっかりと父親ゆずり。畑のほとんどが、自宅から半径300m以内にあり、極一部の離れた畑もわずか1kmほどの近さで、農作業の徹底、収穫直後のセラーへのブドウ搬入とともに理想的な環境を持つ。ガメの一部は、ヴィーニュ・フランセーズ（アメリカ産台木に接ぎ木していない樹）。醸造は、白の多くを全房でプレス、赤は除梗し木樽または樹脂製タンクで発酵。熟成は全てブルゴーニュ・タイプの古樽で行う。大原則として醸造、瓶詰めとも亜硫酸塩無添加で、派手ではないが、実を備えたワインを造る。

	○Autochtone オートクトヌ			備考	Autochtone : 先住の、大地からの。 収量の多い品種とされるが、収穫量を抑えじっくりと果実の成熟を待つジュリアンのスタイルでは、果皮の成分を感じ、白品種には珍しく、しばしば紫色の花を連想させる甘い香りも出る。
	畑	品種 : ロモランタン100% 位置 : 標高130m、ほぼ平地 土壌 : 粘土質、シレックス、珪土	醸造		
	○Résonance レゾナンス			備考	Résonance : 共振、共鳴 比較的若木にもかかわらず、ジュリアンの手にかかると非常にエキスの詰まった、しかし飲み疲れないデリケートの味わいになる。香りと味わいに共通する若干の塩味も感じ、非常に複雑。
	畑	品種 : シュナン・ブラン100% 植樹 : 2011年 位置 : 標高120m、平地 土壌 : シリカ、シレックス、フリント粘土	醸造		
	○Originel オリジネル			備考	Originel : 起源 ムニュー・ピノはジュリアンの代名詞ともいえる品種で、高い酸と控えめな果実味の品種の個性が良く出ている。土壌由来の骨格しっかりとでている。
	畑	品種 : ムニュー・ピノ100% 植樹 : 1968年 位置 : 標高130m、ほぼ平地 土壌 : 粘土質、シレックス、珪土	醸造		
	○Sava Sol サヴァ・ソル			備考	名前の由来は"Savagnin de Sologne"。ソーローニユの土地で獲れたムニュー・ピノを、ジュラのサヴァニャンのように長期間の酸化熟成をしていることから、このように名付けた。運摘みされたブドウだが、残糖がなくなるまで長期熟成をし、辛口に仕上げている。
	畑	品種 : ムニューピノ100% 植樹 : 1968年 位置 : 標高130m、ほぼ平地 土壌 : 粘土質、シレックス、珪土	醸造		
	○Esquiss エスキス			備考	Esquiss : 下絵、草稿 数年に一度しか造られない。サヴァ・ソル同様に運摘みだが、更に収穫までの果実の成熟をぎりぎりまでひばれるかどうかが鍵。その分樽熟成も長めで、同様に酸化熟成させている。糖度の高い果汁が、完全発酵するまでじっくりと待つので、糖分の甘さはないが、酸化的な甘みやうま味に富む。このような熟成が出来るのも、ムニュー・ピノの高い酸あってこそ。
	畑	品種 : ムニュー・ピノ100% 植樹 : 1968年 位置 : 標高130m、ほぼ平地 土壌 : 粘土質、シレックス、珪土	醸造		
	●Rosé ロゼ			備考	ガメをマセレーションをせず、プレス。色合いは非常に淡いサーモンピンク。ガメという品種の個性よりもミネラル感や骨格などの、シレックスの豊富なソーローニユの土壌を強く感じる。
	畑	品種 : ガメ100% 植樹 : 1968年 位置 : 標高120m、平地 土壌 : シリカ、シレックス、フリント粘土	醸造		

	●Ancestral アンセストラル			備考	Ancestral : 先祖から受け継いできた比較的時間のうちから楽しみやすいのは、品種がブレンドされているからか。しかし単純ではなく、紫色の花が優雅に香り、洗練された豊かな果実味。
	畑	品種 : コ、ガメ (ヴィーニュ・フランセーズ)、ガスコン 植樹 : コ 2003年、ガメ(ヴィーニュ・フランセーズ) 1978年、ガスコン 2006年 位置 : 標高130m、ほぼ平地 土壌 : 粘土質、シレックス、珪土	醸造		
	●100% サン・ブルサン			備考	明るい花の香りと、果実味も豊か。しっかりと果実を成熟させ、樽熟成も長く、後味も長い。複雑で飲みごたえのあるガメ。
	畑	品種 : ガメ100% 植樹 : 1968年 位置 : 標高130m、ほぼ平地 土壌 : 粘土質、シレックス、珪土	醸造		
	●Elements エレモン			備考	Elements : 要素、元素 旧エレモン・テール。タンチュリエ種である、ガメ・シヨドネらしく、野性的な個性が前面に出ている。果実由来か、土壌由来か、しばしばスモーキーなニュアンスも。色は濃い目。
	畑	品種 : ガメ・シヨドネ100% 植樹 : 1968年 位置 : 標高130m、ほぼ平地 土壌 : 粘土質、シレックス、珪土	醸造		
	●Libation リバシオン			備考	Libationとはフランス語で神酒や、ワインを注ぐ動作を意味する。2005年に醸造した際に、揮発酸が高くなってしまったので、翌年、翌々年の果汁を足して、再醸造させた。さらにトノーで長期の熟成をすることでワインを落ち着かせた。2010年ビン詰。果物を漬け込んだような香りで、酒質は強い。古い辛口のポルトのような味わい。
	畑	品種 : ガメ (自根)、ガメ・ノワール・ジュ・ブラン、ガメ・シヨドネ 植樹 : 1970年代 位置 : 標高130m 土壌 : 粘土質、シレックス	醸造		